

全国農政連推薦・県農政連公認  
参議院議員藤木しんやの

## 永田町でも 百姓宣言

### 「あの夏から一年」

昨年の7月10日。日本全国の皆さまからご支援をいただき初当選を果たすことができ、議員生活も一年が経過いたしました。

選挙を通じて私が常々感じていた「農業現場と国の方針とのギャップ」。農業現場の人間として国政に農家の声を届け、政策に反映するんだという思いの中であつたという間の一年でした。

しかしながら、TPPや農協改革、農業改革関連法案等の国会審議の中で、自分の立ち位置でしっかり役割を果たせたのか。日々、自問自答の中で過ごしました。「皆さんと同じ」百姓の一人として東京で頑張る」という初心を忘れず、国政の場で全力を尽くしていきますので、引き続きのご指導ご鞭撻をいただけると幸いです。

### 【自然災害の猛威再び】

九州北部を襲った台風・豪雨災害により被災された方々に心よりお悔みとお見舞い申し上げます。直後より現地に入らせていただき、被害状況の確認、今何が必要なのか、中長期的にはどんな対応を想定しておくべきかという点について要望を伺って回りました。

私の議員生活も昨年夏の台風、豪雨、

長雨による災害対策から始まりました。

今回の台風3号・豪雨により熊本県も大きな被害が発生しています。農作物への直接的な被害をはじめ農業用施設の損壊箇所も多くみられます。JA熊本中央会の対策本部を中心にいち早く農業被害の状況をとりまとめたいいただきました。災害対策特別委員会の委員として、熊本の先生方と連携しながら政府に対してしっかりと要望してまいります。

### 【国内農業の生産基盤を守る】

欧州とのEPAが大枠合意に至りました。情報開示がなされないまま、生産現場には相当な不満や不安があります。「攻め」は「守り」があつてこそ。国内の生産基盤、美しい日本の田園風景を守ることに全力をあげます。



▲岸田外務大臣に要請（日EU・EPA関連）

全国・県農政連推薦  
参議院議員山田としおの

## 農政問題に斬り込む

### 日EUの大枠合意とコメの先物取引を考える

台風3号等で大規模な被害が生じました。心からお見舞い申し上げます。災害対策特別委員会筆頭理事としても、全力を挙げて対策に取り組みます。

日EU経済連携協定交渉は、大枠合意されました。

私は、一貫して、生乳の生産動向、需給の見通し、酪農農家戸数の減少、内容が明らかにされていない畜安法の改正による生乳の集荷販売の管理、飲用と加工仕向の計画化、それを支える補給金交付の仕組み等を踏まえたいうえで、あくまで需給上不足する分のみについて対処すべきと発言してきました。

今後、加工原料乳の需給はきちんと管理するのでとする政省令が早く示されたうえで、加工原料乳について、再生産可能な所得を補償する補給金の水準が示されなければなりません。

また、消費者の多様な需要に応える乳製品の開発・加工対策の強化、酪農家の負担軽減に向けた新技術の導入、豚マルキンのTPP協定発効前の前倒し実施、地理的表示産品などの国産農産物の輸出促進等の対策が必要です。

コメの先物取引について、私はこれまで一貫して反対してきました。国が生産数量の目標を定め、ナラシや直接支払いも目標の達成要件とし、JAや農業者らが計画生産に取り組んでいると聞いて、

自由な生産・流通・販売を促進させることで成り立つ先物取引を国が認定するのは筋が通らないからです。

ところが、30年産から国が目標を配分しない、ナラシも目標達成を条件としない、そして31年産から実施に移す収入保険制度のもとでは、個々の目標配分がなくなり、所得変動への対処は個人個人の判断にゆだねられ、コメの自由な生産・流通・販売の流れは、さらに加速するのだと思います。

また、買取販売において、出来秋の高い価格で買取り、販売終期で価格が低下した場合、その手立として、よほど補てんする積立金があるか、農業者の了解を得て平均価格で精算できるのか、ということになります。そんなこと絶対に出来ません。1年を通じて販売し精算するには、時期別販売の価格差はあるもののプール価格ではありません。随時、価格が必要なら、現物取引市場による売買と、高い時に買ったコメは先物取引でヘッジしておかざるを得ないのです。

まさに、信頼できる価格形成センター（現物取引所と先物取引所）が必要になります。当面は、堂島の先物取引の試験実施を続けつつ、新たな価格形成の在り方と、経営安定対策の在り方等について、幅広い検討を早急に行うべきなのです。

その検討の場は、規制改革推進会議ではありません。農水省にきちんと専門家を集めて検討すべきです。



▲日EU等経済協定対策本部での安倍総理への申入れ